

「釣りをしたい！」祖母の家に遊びに行った時に、ふと頭に浮かびました。当時6歳くらいだった私は、釣りの経験がありませんでしたが、自然いつばいの田舎で釣り人を見つけ、祖母に懇願しました。



「わかった。釣りをしよう」と笑顔で即答した祖母は、私を連れて物置小屋へ向かいます。祖父の趣味の釣りセットから、取り出し

⑱ 祖母と釣り



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

たのは針と糸のみ。『あれ？釣り竿は？』と子どもながらに思っている、今度は鎌を持って、裏山の竹林へ向かいます。手際よく竹を切り、枝を切り落とし、程よい長さにして、先ほどの糸と針をつけて釣り竿が完成。今度は畑

われた私は、餌としてのミミズに抵抗があり、黙りこくってしまいました。



それを見た祖母は、すぐに畑から撤退し、台所で小麦粉をこね始めました。出来上がった小麦粉の団子を渡しながら、「これなら針に刺せる？」と優しく聞いてくる祖母の質問に「うん！」と

竿と餌、完全オーダーメイド

返答し、元気を取り戻した私は、その後、家の横の川で、フナを中心にあくさんの魚を釣りあげました。

思い返せば、竹は一本だけではなく、いろいろ切り、しなりを見るだけでなく、私に「持ちやすさ」などを確認しながら、検討、餌も私に合わせて、ミミズから小麦粉に切り替え、臨機応変に対応し、私に合わせた完全オーダーメイドの釣り竿と餌で釣りができました。釣りももちろん面白かったの

ですが、「釣り竿をつくった」という過程が一番記憶に残っています。



話は変わって、先月末に、「探偵・ナイトスクープ」に理科のアドバイザーとして出演しました。「アルミ皿に入っているポップコーンを1粒残らず全てはぜさせる」という難問に科学的な視点でアイデアを出し、前回の「ペットボトルに入った柿の種をスムーズに取り出す」というテーマと同様に、無事解決する事ができました。柿の種もポップコーンもナイト

スクープに依頼があるだけあって、その解決方法はどこにも記されていない。しかし、何とか解決に至ることができました。その要因を考えた時に、真っ先に思い出したのは、祖母とのかかわり。祖母との思い出はたくさんありますが、その全てが、決して押し付けではなく、常に私のやりたいことに寄り添ってくれたものでした。また、途中の過程でも、ミミズから小麦粉に変更したように、柔軟に私の反応に合わせて、私は常に、複数の選択肢を自分で考えながら遊ぶことができました。これが、今の私の基盤となり、育児の指針の一つとなっています。